



2024年2月14日

各位

会社名 株式会社グラッドキューブ  
代表者名 代表取締役 CEO 金島 弘樹  
(コード番号：9561 東証グロース)  
問合わせ先 専務取締役 CIRO 財部 友希  
ir@glad-cube.com

通期業績予想数値と実績との差異及び  
特別損失（ソフトウェア資産の減損損失）の計上に関するお知らせ

当社は、2023年11月14日に公表しました2023年12月期（2023年1月1日～2023年12月31日）の通期業績予想数値について、下記のとおり実績との間に差異が生じたのでお知らせいたします。

1. 2023年12月期（2023年1月1日～2023年12月31日）の通期業績予想数値と実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 1,500	百万円 120	百万円 110	百万円 50	円銭 6.13
今回実績値（B）	1,523	142	143	59	7.29
増減額（B－A）	23	22	33	9	－
増減率（％）	1.5	19.1	30.0	19.0	－
（参考）前期実績 （2022年12月期）	1,480	461	455	297	39.13

2. 特別損失（ソフトウェア資産の減損損失）の発生及びその内容

2023年12月期第4四半期会計期間（2023年10月1日～2023年12月31日）において、SPAIA事業においてSPAIA競馬に係る開発費の一部をソフトウェア及びソフトウェア仮勘定として資産計上しておりましたが、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づいて回収可能性を検討し、保守的に収益見込み等を勘案した結果、当該ソフトウェア及びソフトウェア仮勘定の帳簿価格の全額を減損処理し、特別損失48百万円を計上いたしました。

3. 差異の理由

前回、業績予想を公表した2023年11月14日時点において、第4四半期会計期間における、マーケティングソリューション事業において、世界的なインフレの進行やエネルギー価格の高騰等の影響など景況の悪化を受け、一部既存クライアントにおいて広告費の削減による予算減やインハウス化による離反などの発生が更に増えるものと想定しておりました。このような状況下、

当社は顧客離反と広告削減に対する措置として、カスタマーサクセスの強化およびアウトバウンドチームの体制強化を重点とした施策をおこなってまいりました。これにより、既存顧客の離反抑制および収益性の高い中型案件顧客の獲得につながったことに加え、業務の効率化と経費節減によりコスト削減に努めたことが主の要因となり収益性が向上し、売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益が前回予想を上回る結果となりました。

以 上